

平成 27 年度一宮市アンケート調査集計結果（子育て世帯向け）

調査対象者： 中・西・北保健センターを訪れた方

調査期間：平成 27 年 6 月 9 日～7 月 7 日

総回答者数：541 人

・ n は、質問に対する無回答を含む集計対象総数で算出割合の基準です。

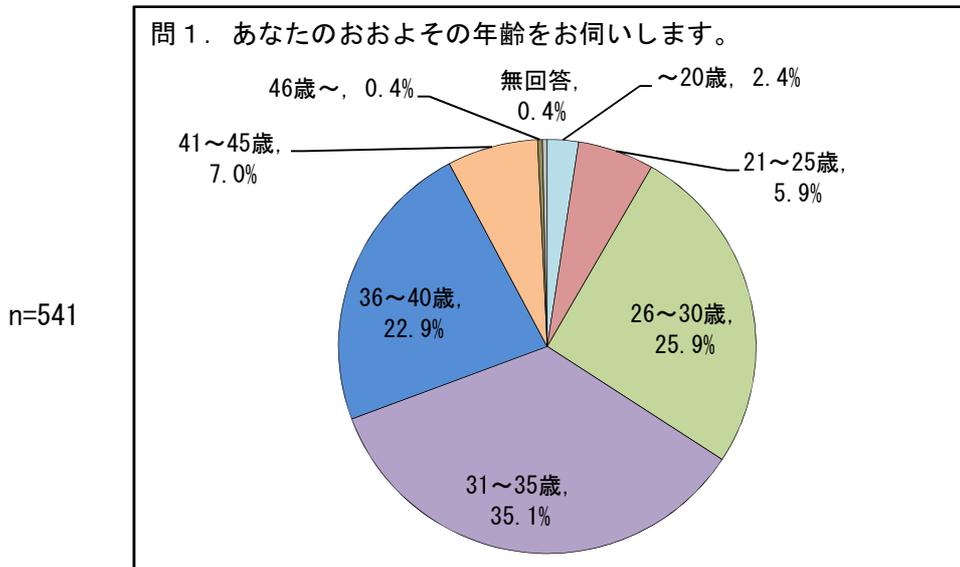
各グラフの左端に n の値を表記しています。

・ 割合は、n に対する各回答数の百分率（%）です。小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。

（1）年齢

回答者の年齢は、20 歳以下 13 人（2.4%）、21～25 歳 32 人（5.9%）、26～30 歳 140 人（25.9%）、31～35 歳 190 人（35.1%）、36～40 歳 124 人（22.9%）、41～45 歳 38 人（7.0%）、46 歳以上 2 人（0.4%）となっています。

出産前後に保健センターを訪れる方の年齢をみると、30 歳以下の方が全体の 34.2%、31 歳以上の方が 65.4%となっており、比較的年齢の高い世代が訪れていることが分かります。結婚・出産の流れの中で、近年進んでいる晩婚化の影響がここにも表れていると考えられます。



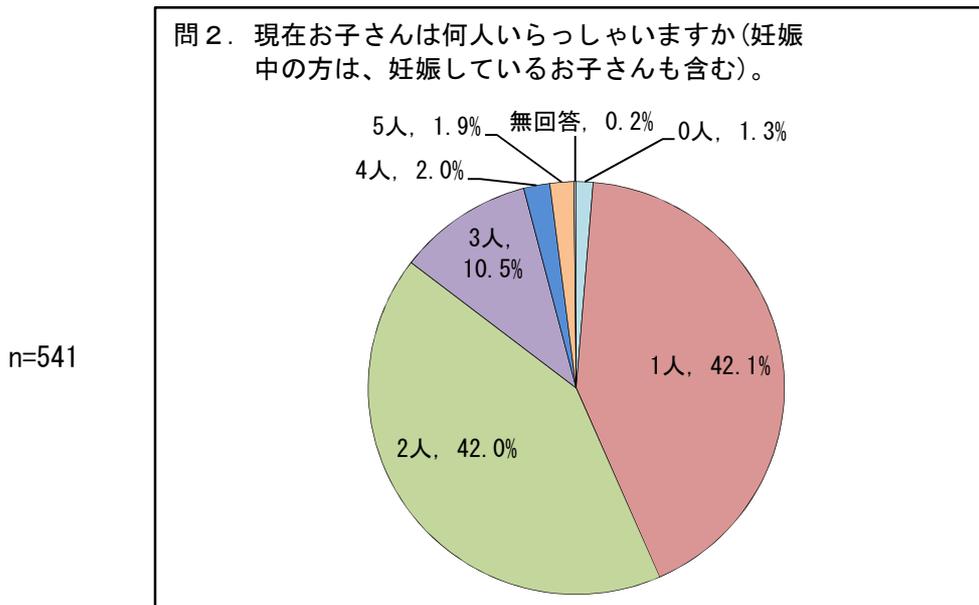
(2) 現在の子どもの人数

回答者の現在の子どもの人数は、0人が7人(1.3%)、1人が228人(42.1%)、2人が227人(42.0%)、3人が57人(10.5%)、4人が11人(2.0%)、5人が10人(1.9%)となっています。

年齢別でみると、30歳以下の185人のうち、現在の子ども0人は5人(2.7%)、1人は105人(56.8%)、2人は61人(33.0%)、3人以上は13人(7.0%)となっています。

また、31歳以上の354人のうち、現在の子ども0人は2人(0.6%)、1人は123人(34.7%)、2人は164人(46.3%)、3人以上は65人(18.4%)となっています。

年齢が上がるに従い子どもの数も増える傾向がみられますが、現在の子どもの数は1人から2人がもっとも多くなっています。



年齢別集計

年齢 \ 人数	0人	1人	2人	3人	4人	5人	無回答
～20歳	0	11	1	1	0	0	0
21～25歳	2	20	8	2	0	0	0
26～30歳	3	74	52	8	1	1	1
31～35歳	1	68	87	24	7	3	0
36～40歳	0	41	61	17	1	4	0
41～45歳	1	13	16	4	2	2	0
46歳～	0	1	0	1	0	0	0
無回答	0	0	2	0	0	0	0
合計	7	228	227	57	11	10	1

(単位：人)

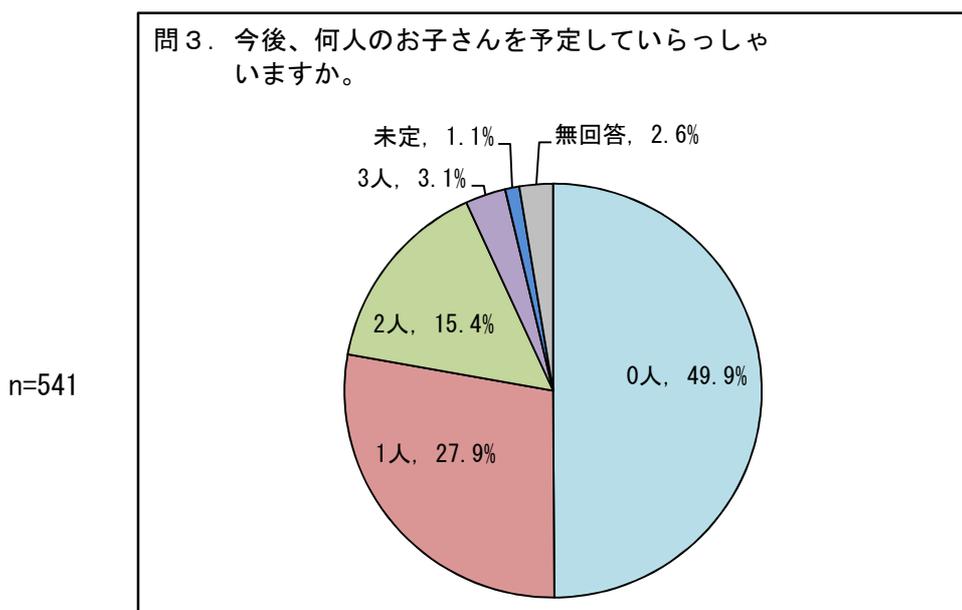
n=541

(3) 今後の出産予定人数

回答者が今後予定している子どもの人数は、0人が270人(49.9%)、1人が151人(27.9%)、2人が83人(15.4%)、3人が17人(3.1%)、未定が6人(1.1%)となっています。

回答者の年代別に結果をみると、今後予定している子どもの人数は21~25歳では2人が11人(34.4%)で最多となっていますが、26~30歳では1人が57人(40.7%)、31~35歳では0人が97人(51.1%)、36~40歳でも0人の83人(66.9%)がそれぞれ最多となっています。

これらの結果から、回答者の年齢が26歳以降になると、今後の出産に慎重になる傾向がみられます。



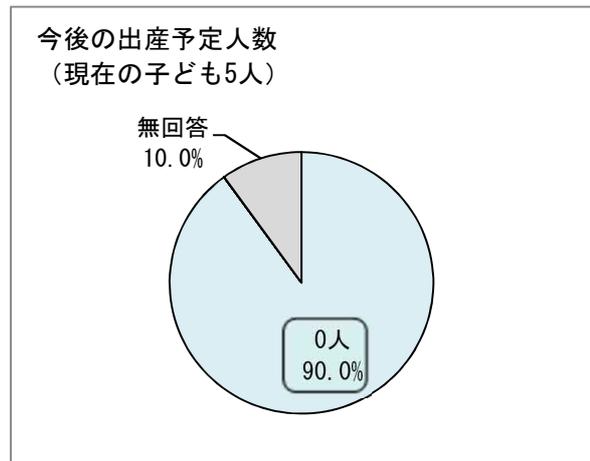
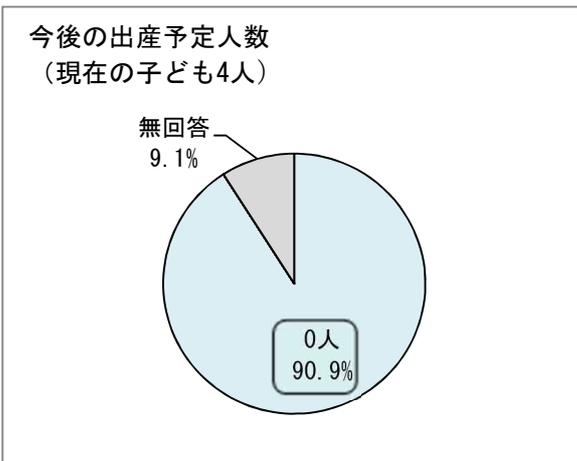
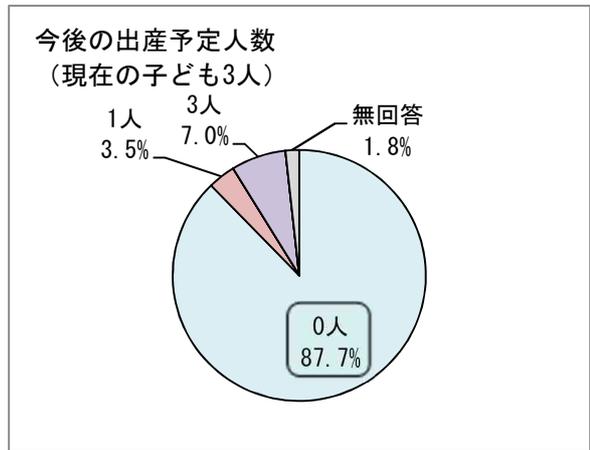
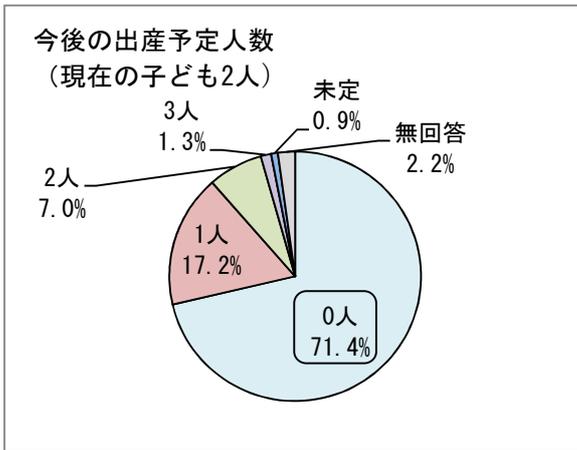
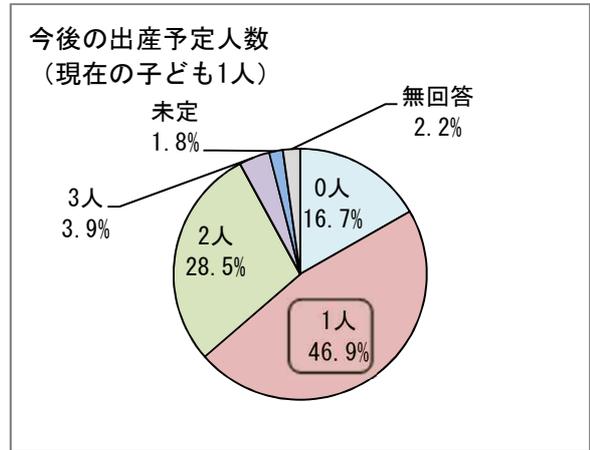
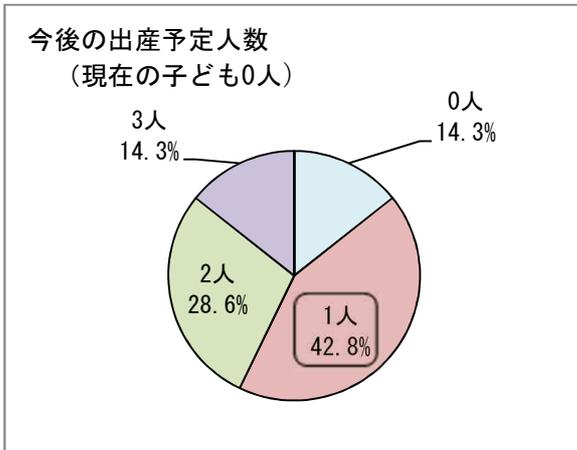
年代別集計

年代 \ 人数	0人	1人	2人	3人	未定	無回答
~20歳	4	5	1	2	0	1
21~25歳	6	7	11	4	0	4
26~30歳	46	57	30	5	0	2
31~35歳	97	56	29	3	2	3
36~40歳	83	21	10	2	4	4
41~45歳	32	5	0	1	0	0
46歳~	1	0	1	0	0	0
無回答	1	0	1	0	0	0

n=541

(単位：人)

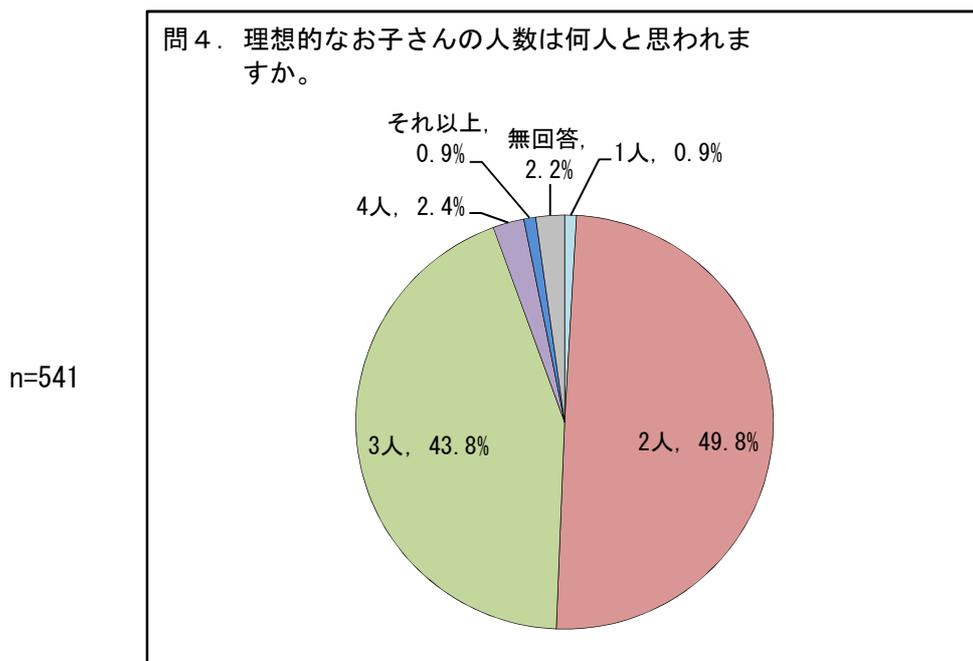
問2. と問3. の回答から、現在の子どもの人数ごとの今後の出産予定人数をまとめました。



(4) 理想的な子どもの人数

回答者の考える理想的な子どもの人数は、1人が5人(0.9%)、2人が269人(49.8%)、3人が237人(43.8%)、4人が13人(2.4%)、それ以上が5人(0.9%)となっています。

全年齢を通じ、理想的な子どもの人数は2人から3人となっており、年齢による大きな違いは特にみられませんでした。また、3人以上を理想とする回答は255人(47.1%)となっており、少子化傾向がみられる中でも、3人以上の子ども理想とする家庭が多く存在することがみられます。



年代別集計

年代	人数					
	1人	2人	3人	4人	それ以上	無回答
～20歳	2	6	4	0	0	1
21～25歳	0	17	13	1	0	1
26～30歳	0	73	60	6	1	0
31～35歳	2	89	88	4	1	6
36～40歳	1	61	56	1	3	2
41～45歳	0	22	13	1	0	2
46歳～	0	0	2	0	0	0
無回答	0	1	1	0	0	0

n=541

(単位：人)

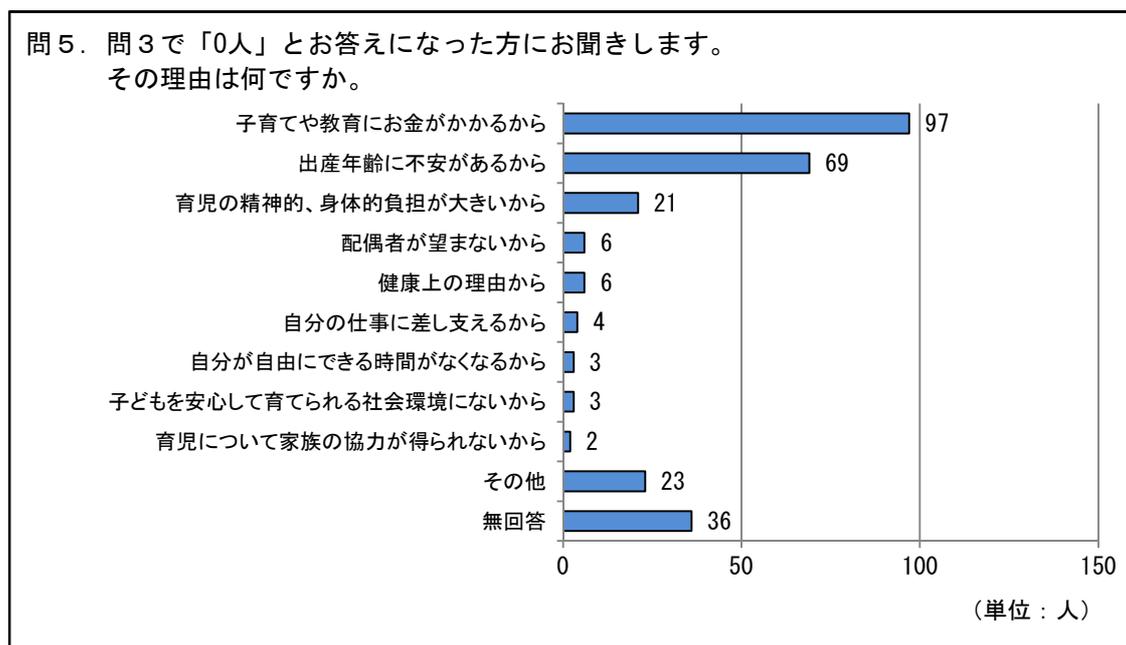
### (5) 出産を予定しない理由

問3で今後の出産予定がない(0人)と回答した270人の理由は、「子育てや教育にお金がかかるから」97人(35.9%)で最も多く、「出産年齢に不安があるから」69人(25.6%)、「育児の精神的、身体的負担が大きいから」21人(7.8%)と続いています。

また、その他と回答した23人(8.5%)は、すべて現在の子どもの人数で満足しているという回答となっています。

経済的理由の他に、晩婚化の影響もあると考えられますが、出産年齢の高齢化の傾向が強まり、出産年齢が高くなることに対する不安が多くなっていることが大きな特徴となっています。

今後、出生数を増やすためには、大きな理由となっている経済的な負担や出産年齢や身体的・精神的な負担に対する不安を取り除くことが必要となってきます。



n=270

### (6) 子育て上の不安

子育てをする上で不安に思っていることを、より不安に思う順に3つ回答してもらいました。全回答の合計では、「小中学校(私立)、高校、大学の授業料」342件(23.2%)が最も多く、「急に子どもを預けることが難しいこと」327件(22.2%)、「保育園・幼稚園などの費用」229件(15.5%)、「習い事や塾にかかる費用」228件(15.5%)、「小学校以降の子どもの一時的預かり先が少ないこと」189件(12.8%)と続いています。(複数回答あり)

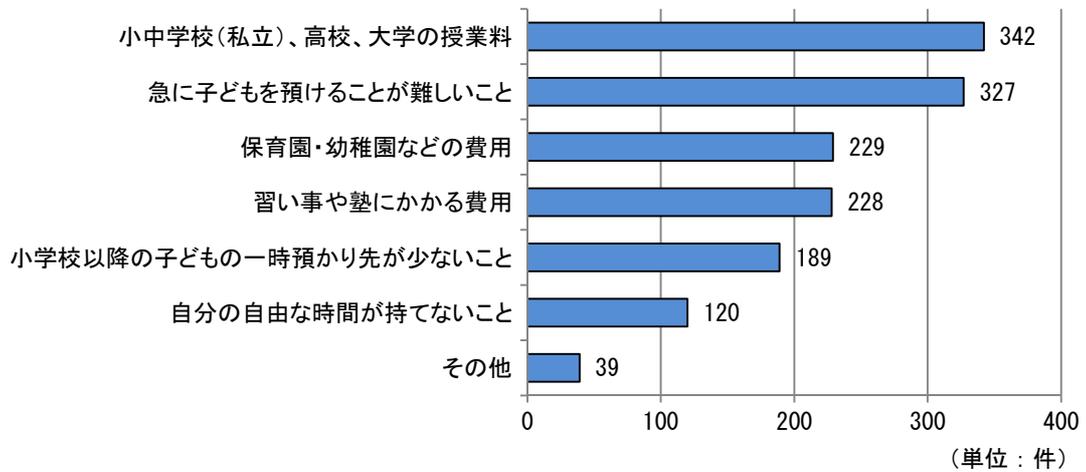
上記の結果を、「経済的な不安」(小中学校・高校・大学の授業料、保育園・幼稚園などの費用、習い事や塾にかかる費用)と、「子どもの預け先に関する不安」(急に子どもを預けることが難しい、小学校以降の一時的預かり先が少ない)の2つに大別すると、全体では「経済的な不安」が799件(54.2%)、「子どもの預け先に関する不安」が516件(35.0%)となっています。

一方、1番にあげた理由で集計すると、「経済的な不安」が239件(44.2%)、「子どもの預け先に関する不安」が247件(45.7%)となり、ほぼ拮抗した結果となっています。

これらの結果から、経済的な問題に加えて、子どもを預ける先に関する問題が、子育て世帯に占める大きな不安であることがわかります。

問6. お子さんを育てていく上で、不安に思われることは何ですか。  
上位3つの番号を、不安に思われる順番にお書きください。

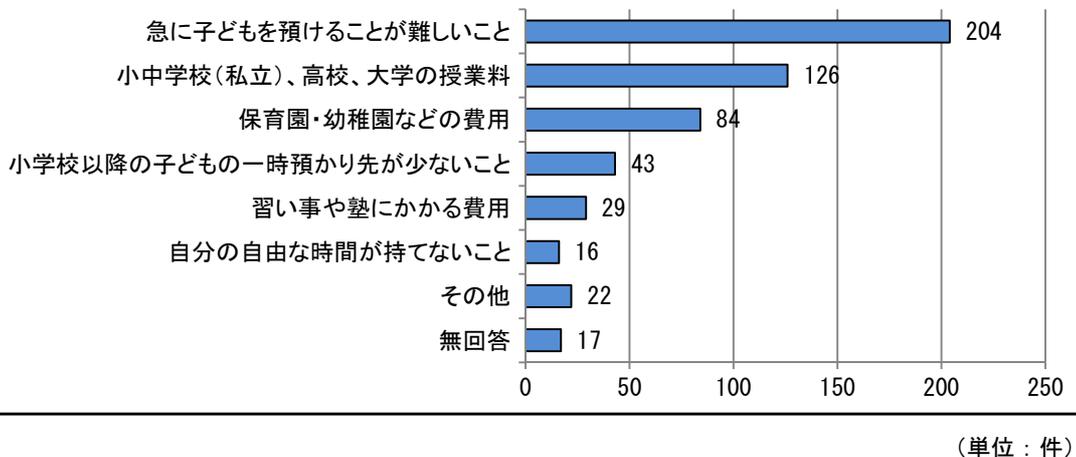
n=1,474



最も不安に思うこととして1番目にあげられていたのは「急に子どもを預けることが難しいこと」204件(37.7%)が最も多く、「小中学校(私立)、高校、大学の授業料」126件(23.3%)、「保育園・幼稚園などの費用」84件(15.5%)と続いています。

(問6で1番にあげられた子育て上の不安)

n=541



#### 問6.【その他】の自由回答

もっとも多かったのは「仕事と育児との両立への不安」となっており、仕事と両立していく上での働く環境、育児時間の減少、家事との両立に対する不安が多く寄せられました。

「保育・学費以外の経済的不安」では、育児や食費に対する費用が多く、「発育や教育への不安」では、子ども同士のトラブルや発育に関する不安が多くなっています。

また、「生活環境への不安」では、治安や子どもを狙った犯罪への不安も多くなっており、安心して生活できる環境も求められていることがうかがえます。

No.	主な分野	件数
1	仕事と育児との両立への不安	10
2	保育・学費以外の経済的不安	5
3	発育や教育への不安	8
4	生活環境への不安	6
5	その他	4

問6. お子さんを育てていく上で、不安に思われることは何ですか。

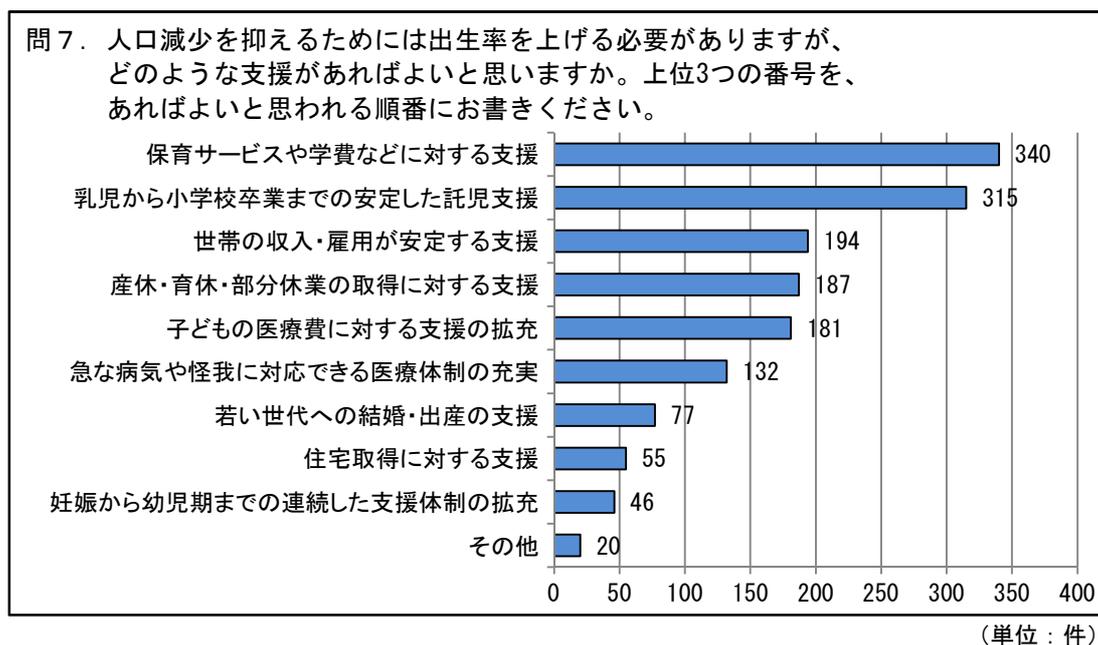
1	仕事と育児との両立への不安
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育児・家事・仕事を上手にバランス良くこなせるか。(3件)</li> <li>・ 就業時間が長くて、子どもと親との十分な時間がかけられなくなる。(2件)</li> <li>・ 仕事との両立。(2件)</li> <li>・ 夫の転勤で引越しを繰り返さなければならない。</li> <li>・ 時短勤務できるのが3歳まで。</li> <li>・ 自分が働ける環境であるか。</li> </ul>	
2	保育・学費以外の経済的不安
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育児や食費にかかる費用。(4件)</li> <li>・ 小学校から医療費がかかる。</li> </ul>	
3	発育や教育への不安
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども同士のトラブル・友人関係。(2件)</li> <li>・ 子どもの発育・発達のこと。(2件)</li> <li>・ 長子に発達障害がある為、社会への適合。</li> <li>・ 子どもの教育やしつけができるか。</li> <li>・ 学校に預けることが不安。</li> <li>・ 社会の役に立つ人に育てられるか心配。</li> </ul>	
4	生活環境への不安
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の治安や小さな子どもを狙った犯罪への不安。(4件)</li> <li>・ 国際情勢や環境問題など、子どもが将来住みやすい世の中かどうか。(2件)</li> </ul>	
5	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分と子どもの健康と体力(2件)。</li> <li>・ 保育所入所(希望する)が難しいこと。</li> <li>・ 親の介護に時間が取られること。</li> </ul>	

### (7) 要望する支援

子育てを経験した立場から、出生率を上げるために望まれる支援をより必要だと思うものから順に3つ回答してもらいました。全回答の合計では、「保育サービスや学費などに対する支援」340件(22.0%)が最も多く、「乳児から小学校卒業までの安定した託児支援」315件(20.4%)、「世帯の収入・雇用が安定する支援」194件(12.5%)と続いています。(複数回答あり)

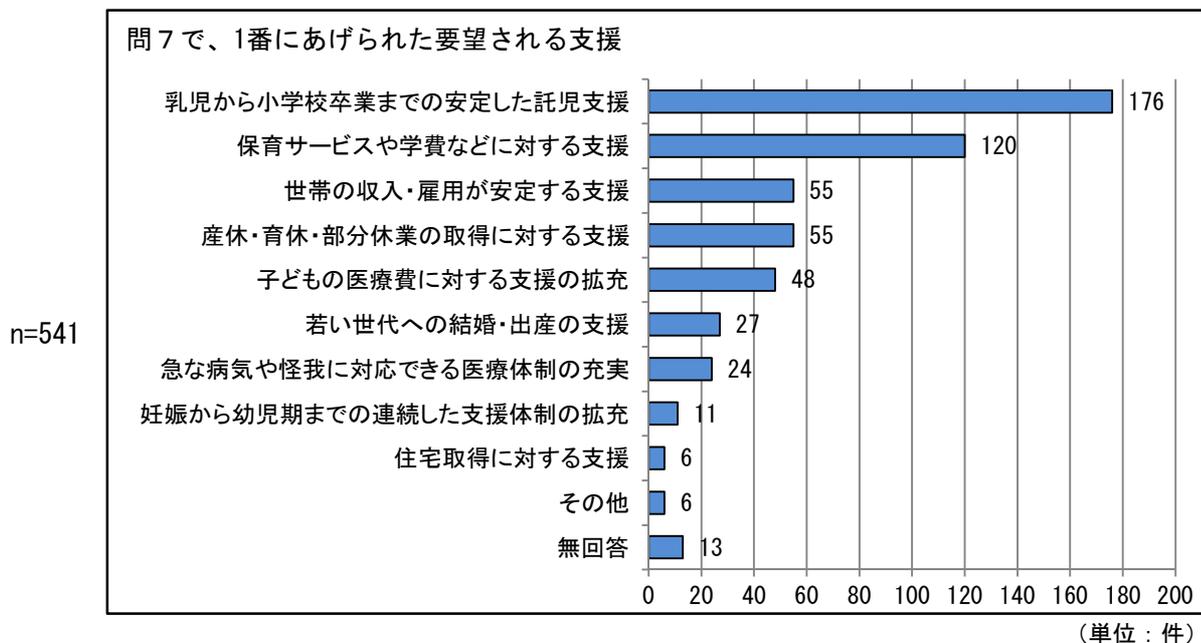
全体の結果では「保育サービスや学費」や「世帯の収入・雇用の安定」「子ども医療費」「住宅取得」などの経済的支援を要望する意見が多くなっています。そのほか、小学校卒業までの託児支援のほか、仕事を続けるための支援、医療体制の充実など、幅広い分野での支援が望まれています。

n=1,547



最も望まれる支援として1番目にあげられているのは「乳児から小学校卒業までの安定した託児支援」176件(32.5%)であり、切れ目のない充実した子育て環境の整備に大きな期待が寄せられていることがうかがえます。「保育サービスや学費などに対する支援」120件(22.2%)、「世帯の収入・雇用が安定する支援」55件(10.2%)、「産休・育休・部分休業の取得に対する支援」55件(10.2%)と続いています。

出生率の向上には、これらの要望や期待に応じていく必要があります。



#### 問7【その他】の自由回答

「仕事と育児との両立への支援」に対するものが多く、中でも母親の産休・育児休暇等の充実により、子育てしやすい雇用環境の整備を求めるものが多く、「経済的支援の充実」では、多子世帯に対する税の減免等や不妊治療に対する支援など、経済的負担の軽減を要望する声も聞かれます。また、「子どもの預け先の拡充」では、母親の出産や急用時など小回りの効く預け先の充実も求められています。

No.	主な分野	件数
1	仕事と育児との両立への支援	7
2	経済的支援の充実	5
3	不妊治療に対する支援の充実	3
4	子どもの預け先の拡充	4
5	若い世代への教育	4
6	母親に対するサポート	2
7	その他	1

問7. 人口減少を抑えるためには出生率を上げる必要がありますが、どのような支援があればよいと思いますか。
1 仕事と育児との両立への支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産休、育休、部分休業等の母親が働きやすい雇用環境の整備。(5件)</li> <li>・子育て世帯の両親の就業時間を所得減給せず規定化する。</li> <li>・父親が育児に参加しやすいよう、残業等に対する配慮。</li> </ul>
2 経済的支援の充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多子世帯に対する学費免除や、税の減免等による経済的援助。(3件)</li> <li>・予防接種、抗体検査の費用だけでも何とかしてほしい。</li> <li>・シッター費に対する支援。</li> </ul>
3 不妊治療に対する支援の充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊治療、不育に対する支援の充実。(3件)</li> </ul>
4 子どもの預け先の拡充
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2人目以降の妊婦・出産、所用時の保育・託児サービスの充実。(3件)</li> <li>・病中病後の保育(小学生も含め)。</li> </ul>
5 若い世代への教育
<ul style="list-style-type: none"> <li>・早い段階(高校生等)から、結婚相手を見つける→結婚→出産→育児の期間について、お金・高齢出産・健康面でのリスクを話し、将来計画を立てる教育をする。(3件)</li> <li>・人生において結婚するにおいて必要なコミュニケーションスキルの教育をする。</li> </ul>
6 母親に対するサポート
<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親への心のケア、家族のサポートが必要です。</li> <li>・未婚女性の妊娠・出産にみんなが偏見をもたないような支援。</li> </ul>
7 その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが小さいうちの支援は多く考えられていますが、小・中になった時のことを考えると、幼児期ではなく、小・中まで継続して相談・支援できるといい。我が家の場合、丁度そのころ親が80歳を超えて介護負担も多くなります。</li> </ul>

## ～ アンケート調査にご協力ください ～

一宮市では、市民の皆様方からご意見等をお聞きし、今後の市政運営やより良いまちづくりに役立てるためアンケート調査を実施させていただいています。アンケートは無記名形式とし、お答えいただいた内容は、本市の子育て支援施策の基礎資料として統計的に処理・活用するのみで、個人が特定されたり、個別の回答内容を公表することはありません。アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

なお、右記のQRコードにアクセスし、スマートフォンから回答していただくこともできます(パソコンの方は下記のURL参照)。

【URL】<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/chihososei/anketoko.html>



問1. あなたのおおよその年齢をお伺いします。(該当する数字1つに○印)

- 1 ～20歳    2 21～25歳    3 26～30歳    4 31～35歳  
5 36～40歳    6 41～45歳    7 46歳～

問2. 現在お子さんは何人いらっしゃいますか(妊娠中の方は、妊娠しているお子さんも含む)。

\_\_\_\_\_人

問3. 今後、何人のお子さんを予定していらっしゃいますか。

\_\_\_\_\_人

問4. 理想的小子さんの人数は何人と思われますか。

\_\_\_\_\_人

問5. 問3で「0人」とお答えになった方にお聞きします。

その理由は何ですか。(該当する数字1つに○印)

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 自分が自由にできる時間がなくなるから  | 2 自分の仕事に差し支えるから          |
| 3 育児の精神的、身体的負担が大きいから  | 4 健康上の理由から               |
| 5 配偶者が望まないから          | 6 出産年齢に不安があるから           |
| 7 育児について家族の協力が得られないから | 8 子どもを安心して育てられる社会環境にないから |
| 9 子育てや教育にお金がかかるから     |                          |
| 10 その他( _____ )       |                          |

問6. お子さんを育てていく上で、不安に思われることは何ですか。

上位3つの番号を、不安に思われる順番にお書きください。

① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1 急に子どもを預けることが難しいこと       | 2 保育園・幼稚園などの費用    |
| 3 小学校以降の子どもの一時的預かり先が少ないこと | 4 習い事や塾にかかる費用     |
| 5 小中学校(私立)、高校、大学の授業料      | 6 自分の自由な時間が持てないこと |
| 7 その他( _____ )            |                   |

問7. 人口減少を抑えるためには出生率を上げる必要がありますが、どのような支援があればよいと思いますか。

上位3つの番号を、あればよいと思われる順番にお書きください。

① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_

- 1 乳幼児から小学校卒業まで安定して子どもを預けられる支援
- 2 保育サービスや学費などに対する支援
- 3 子どもの医療費に対する支援の拡充
- 4 子どもが急な病気や怪我のときにかかれる医療体制の充実
- 5 産休・育休・部分休業の取得に対する支援
- 6 住宅取得に対する支援
- 7 若い世代への結婚・出産の支援
- 8 妊娠から幼児期までの切れ目のない相談・支援体制の拡充
- 9 世帯の収入・雇用が安定する支援
- 10 その他【具体的な内容をご記入ください】

{ \_\_\_\_\_ }

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。回収箱へ投函してください。

なお、ご不明な点やお問い合わせは、企画部地方創生室(0586-85-7431)までご連絡ください。